

第79回

全国児童養護施設長研究協議会 栃木大会

開催要綱

◆本大会では資料冊子の配布・参加券の郵送を行いません◆

大会 テーマ

子どもの夢と希望を育む社会のために
～地域との多様なつながりとパーマネンシーの保障～

趣 旨

児童相談所における児童虐待相談対応件数が依然として高水準で推移するなか、令和4年改正児童福祉法の全面施行から一定期間が経過し、「途切れない自立支援」や意見表明等支援事業は運用の質と実効性が問われる局面にある。また、「後期都道府県社会的養育推進計画」のもと、家庭養育優先原則のさらなる推進や施設の多機能化・小規模化への取り組みは、より具体的な実践段階へと移行している。

児童養護施設で暮らす子どもたちの多くは、逆境的体験により深く傷ついた状態で入所してくる。将来への期待や夢をもつことが難しい子どもたちが、自らの未来を思い描き、再び夢を抱くことができるよう、施設職員は日々真摯に向き合い、支援を継続している。子どもたちは施設でのあたたかい養育を通して心の回復をめざし、それぞれの希望に向かって社会へと羽ばたいていく。

本大会では、困難な課題を抱える家庭やそこで暮らす子どもへの支援、施設における養育、退所後の支援まで、入所前から退所後に至る全過程において、施設だけではなく地域での多様なつながりの中でパーマネンシーを保障していく養育のあり方を展望するとともに、子どもの夢と希望を社会全体で育むための具体的なアプローチを掘り下げ、児童養護施設のあり方を協議する場としたい。

期 日 令和8年 11月17日(火) ～19日(木)

会 場 【全体会・研究部会】 ライトキューブ宇都宮 (〒321-0969 栃木県宇都宮市宮みらい1-20)

【意見交換会】 ホテル東日本宇都宮 (〒320-0013 栃木県宇都宮市上大曽町492番地1)

※全体会・研究部会会場と意見交換会会場間のシャトルバスを運行します(有料、詳細は別紙)。

主 催 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国児童養護施設協議会
栃木県児童養護施設等連絡協議会

後援(予定) こども家庭庁 栃木県 宇都宮市 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会

参加対象 ①児童養護施設長および職員 ②社会福祉法人等役員
③永年勤続表彰等被表彰者 ④児童福祉関係者

参加定員 600名

参加費 25,000円 (交通費・宿泊費・意見交換会費・昼食費・シャトルバス代は含みません)

資料冊子の配布はありません。事前にダウンロードのうえご参加ください。
P.7の「参加までの流れ」をご確認ください。

日程・プログラム

	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
11月 17日 (火) 第1日					受付	開会式・ 式典	基調報告 (45分)	行政説明 (45分)	記念講演 (90分)			意見交換会 (120分)	
18日 (水) 第2日						研究部会							
19日 (木) 第3日		資生堂	シンポジウム (120分)	閉会式・ 大会総括									

※大会期間中、同会場にて絵画展を開催いたします。

第1日 (11月17日(火) 13:00～17:15)

時 間	プログラム
12:00	受付開始
13:00～13:55	開会式・式典
14:00～14:45	基調報告 【領域②③】 全国児童養護施設協議会 会長 高橋 誠一郎
14:45～15:30	行政説明 【領域④】 「社会的養護施策の動向」(仮) こども家庭庁支援局 家庭福祉課
15:30～15:45	休憩
15:45～17:15	記念講演 【領域①②】 「日光東照宮に見る平和思想一家康公の願いと彫刻が語るもの」 高藤 晴俊 氏 《プロフィール》 昭和23年栃木県日光市出身。昭和47年に日光東照宮奉職。國學院大學大学院(神道学専攻)博士課程単位取得退学。日光東照宮では、神職として神事、伝統文化の継承、伝承に務めた。また、ライフワークのカメラをとおして、日光東照宮の春夏秋冬、神職でしか立ち入ることのできない夜間の境内等の撮影を行い、世に知らしめた。平成25年日光東照宮退職。現在は日光東照宮特別顧問、文星芸術大学非常勤講師。大学では、日本美術史や文化財学を教えている。著書に写真集『天下の神廟 日光東照宮』(令和3年刊 下野新聞社)、『神君家康公 日光を選ぶ～東照宮の創建と、日光開山伝説の周辺』(令和7年刊 下野新聞社) その他多数。
18:30～20:30	意見交換会 (希望者) ※会場は「ホテル東日本宇都宮」です。 ※意見交換会会場まではシャトルバスを運行します(有料、詳細は別紙)。

第2日 (11月18日(水) 10:00～16:30)

時 間	プログラム
10:00～16:30	研究部会 (第1部会～第6部会) 第1研究部会 「永続的な大人とのつながりを保障するために児童養護施設ができること」 助言者：横堀 昌子 氏 (青山学院大学 教授) 座 長：松崎 剛 (全国児童養護施設協議会 副会長／福岡県・福岡子供の家 施設長) 第2研究部会 「心理的安全性を担保する施設風土・文化の醸成 ～人材育成指針の活用～」 助言者：増沢 高 氏 (子どもの虹情報研修センター長) 座 長：花田 悦子 (全国児童養護施設協議会 研修部長／福岡県・報恩母の家 施設長) 第3研究部会 「市町村と施設の地域支援機能の展開に向けて ～行動と実践、そして専門的な支援を考える～」 助言者：大竹 智 氏 (立正大学社会福祉学部長) 座 長：川瀬 勝敏 (全国児童養護施設協議会 制度政策部長／長野県・つつじが丘学園 施設長) 第4研究部会 「子どもの心に寄り添った安心・安全な施設生活とは ～当事者の声から～」 助言者：河尻 恵 氏 (日本福祉大学 教授) 座 長：飯塚 富美 (全国児童養護施設協議会 総務部長／神奈川県・心泉学園 施設長) 第5研究部会 「子どもの夢と希望を育む～そこから見いだす自立支援～」 助言者：永野 咲 氏 (武蔵野大学 准教授) 座 長：谷口 太郎 (全国児童養護施設協議会 調査研究部長／秋田県・県南愛児園ドリームハウス 施設長) 第6研究部会 「2030年以後の児童養護施設を見据えて」 座 長：柏倉 正 (全国児童養護施設協議会 副会長／児童養護施設からの提言特別委員会 委員長／北海道・函館国の子寮 施設長) ※【詳細はP.4～P.6を参照】

第3日 (11月19日(木) 9:30～12:30)

時 間	プログラム
9:30～10:00	資生堂海外研修報告
10:05～12:05	シンポジウム【領域②④】 「子どもの夢と希望を育む社会のために ～地域との多様なつながりとパーマネンシーの保障～」 児童養護施設では子どもたちの日々の生活に寄り添い、生活の中から感じとられる子どものニーズに応える養育をそれぞれの地域において積み重ねてきている。多くの子どもたちは逆境的な環境のなかで傷つき、心身に大きな課題を背負わされて、社会的養護の場にたどり着いている。子どもの生きづらさは困難の度を増してきているという実感は児童養護施設関係者にとどまらず、地域においても共通の認識になってきている。 全国児童養護施設協議会が発行した「この子を受けとめて、育むために一育てる・育ちあういとなみー」の「養育についてのメッセージ」の冒頭に、「養育とは、子どもが自分の存在について、『生まれてきてよかった』と意識的・無意識的に思い、自信をもてるようになることを基本の目的とする」とある。子どもの夢と希望、さらに職員の夢と希望の実現には、児童養護施設が自己完結的にできることには限界がある。地域特性を踏まえて、何が求められ、何をしていかなければならないのかを、改めて考えてみたい。 シンポジスト 山梨県立大学 教授 山田 勝美 氏 栃木県・自立援助ホーム星の家 星 美帆 氏 当事者・とちぎユースアフターケア事業協同組合 塩尻 真由美 氏 コーディネーター 全国児童養護施設協議会 副会長 大場 信一
	大会総括 (大会宣言採択)
12:20～12:30	閉会式 (次期開催地挨拶、閉会挨拶)

第1研究部会

「永続的な大人とのつながりを保障するために 児童養護施設ができること」

趣 旨

社会的養護を必要とする子どものパーマネンシー保障の重要性は広く認識されている。一方、被虐待経験や障害のある子どもの割合の増加、思春期年齢以降に入所となる子どもの増加傾向等、施設で暮らす子どもの多くが重篤な課題や複雑多様なニーズを抱えている。

一時保護やショートステイを複数回経験するも環境悪化等により親子分離となった子ども、いくつかの施設養護や家庭養育を経験した子どもなど、パーマネンシー保障に逆行するかのよう、生活環境の変更を余儀なくされ、養育が分断された経験をもつ子どもが増えていることも実感する。

本研究部会では、子どものパーマネンシーを保障していくために、子どもに関わる大人がつながることの重要性を確認する。あわせて、子どもが家族や家族に代わる大人との関係性を維持していくための児童養護施設の実践、担うべき役割について協議していく。

論 点

1. 親や家族を含めた支援の実際と課題
2. 養育の分断を防ぐための取り組みと実践上の課題
3. 養育者相互のつながりを意識した支援とパーマネンシー保障に必要な視点

助言者

横堀 昌子 氏（青山学院大学 教授）

座 長

松崎 剛（全国児童養護施設協議会 副会長／福岡県・福岡子供の家 施設長）

第2研究部会

「心理的安全性を担保する施設風土・文化の醸成 ～人材育成指針の活用～」

趣 旨

近年、施設に入所してくる子どもの課題は以前より深刻で、重症化している。このようななかで現場職員には、専門的な知見、姿勢、スキルがより求められ、そのための学びをどのように展開していくかが施設に問われている。職員が学び合い、専門性を高めていくためには、安心して情報共有、意見交換等ができる風土や文化が施設内に根づいていることが前提となる。

本研究部会では、重症化に対応できる専門性について、新たな研修体系（案）をもとに検討するとともに、学び合いに必要な施設風土や文化とは何か、それを醸成するための施設長等リーダーの役割について研究討議を深めたい。

論 点

1. 施設職員に必要な知識、技術、姿勢（OJTの充実に向けて研修体系の活用も含む）
2. 心理的安全性を保障するための施設風土・文化の醸成に必要なこと
3. 施設長としての役割

助言者

増沢 高 氏（子どもの虹情報研修センター長）

座 長

花田 悦子（全国児童養護施設協議会 研修部長／福岡県・報恩母の家 施設長）

第3研究部会

「市町村と施設の地域支援機能の展開に向けて ～行動と実践、そして専門的な支援を考える～」

趣 旨

貧困、虐待など子育てにおける孤立の問題が顕在化している地域社会では、ライフサイクル（発達段階）や個別ニーズに応じた支援体制づくりが求められている。

平成28年の児童福祉法改正では、児童虐待の予防から自立支援までの対策強化と、児童を「権利の主体」と位置づける理念が明確化され、児童相談所・市町村体制強化、里親支援、家庭養育の推進などを柱とする改正がなされた。

10年たった今、その理念は広がり、柱は太くなっているのだろうか。児童養護施設の多機能化が求められているが、どこまで進んでいるのか。取り組みの事例をもとに、これらの問題と向き合い、地域に一步踏み出した施設づくりについて語り合う場としたい。

論 点

1. 現在地域子育て家庭が抱える問題
2. 児童養護施設が提供できる資源
3. それを結び付ける方法

助言者

大竹 智 氏（立正大学社会福祉学部長）

座 長

川瀬 勝敏

（全国児童養護施設協議会 制度政策部長／長野県・つつじが丘学園 施設長）

第4研究部会

「子どもの心に寄り添った 安心・安全な施設生活とは～当事者の声から～」

趣 旨

2023年度に本会で取りまとめた「児童養護施設が担う機能と今後の展望・展開」において、「個別的養育機能」が柱のひとつとなっている。「個別的養育」とは、入所ケースが複雑化、多様化するなかで、子どもと職員の信頼関係に基づいて、一人ひとりが自ら描く「育ちと将来の希望」に寄り添うこと、その子どもに合った「安心・安全な施設生活」を、子どもと職員が一体となってともに作り上げ、未来へと繋げていくことではないだろうか。また、その育ちにおいて、パーマネンシーは保障されているであろうか。

本研究部会では、当事者が寄せてくれる声を起点として、我われが出会う一人ひとりの子どもの育ちについて、施設はパーマネンシーの保障をいかに構築できるか、参加者とともに議論を深めたい。

当事者登壇予定

論 点

1. 子どもが安心して自身の育ちや希望を語るには、何が必要か
2. パーマネンシーの保障はなぜ必要か
3. パーマネンシーの保障をどう構築できるか

助言者

河尻 恵 氏（日本福祉大学 教授）

座 長

飯塚 富美（全国児童養護施設協議会 総務部長／神奈川県・心泉学園 施設長）

第5研究部会

「子どもの夢と希望を育む

～そこから見いだす自立支援～」

趣 旨

児童養護施設における自立支援は、退所後の生活を支えるだけでなく、子どもが安心して「自分らしい未来」を描けるようにすることが重要である。そのためには、施設内での支援にとどまらず、地域との多様なつながりを築き、継続的な人間関係や居場所を確保する「パーマネンシーの保障」が不可欠である。

近年、家庭的養護の推進や地域分散化が進むなかで、夢や希望をもって成長できる環境づくりが求められている。

本研究部会では、自立支援の現状と課題を整理し、地域資源の活用やアフターケアの充実、多職種連携のあり方について考えたい。

当事者登壇予定

論 点

1. 自立支援の本質とは何か（生活スキルの習得だけでなく、将来への希望を育む支援とは何か）
2. 地域との多様なつながりの構築（地域との連携をどう深め、広げていくか）
3. 職員の役割と専門性の向上（子どもの伴走者として、職員に求められる視点と支援力の強化）

助言者

永野 咲 氏（武蔵野大学 准教授）

座 長

谷口 太郎

（全国児童養護施設協議会 調査研究部長／秋田県・県南愛児園ドリームハウス 施設長）

第6研究部会

「2030 年以後の児童養護施設を見据えて」

趣 旨

全国児童養護施設協議会は、施設の役割やあり方について近年2冊の報告書[※]をとりまとめ、方向性を示してきた。他方、各都道府県でとりまとめられた「社会的養育推進計画」は家庭養育優先原則のもとに粛々とすすめられている。これから児童養護施設は社会のなかでどのような役割を担い、子どものための施設としてどうあり続けていけばよいのだろうか。

本研究部会では、昨年度から設置されている「提言特別委員会」における議論と調査の中間報告をする。そして先に示された3つの機能（個別的養育、支援拠点、地域支援）をベースとしながらも、真に子どもの暮らしに立脚した包括的なニーズアセスメントを模索し、2030 年以後の児童養護施設の方向性について参加者とともに考え、新たな提言書の作成に資するものとした。

なお、本研究部会の参加者には事前に報告書[※]を読んだうえで参加いただきたい。

※①「今後の児童養護施設に求められるもの（児童養護施設のあり方に関する特別委員会 最終報告書）」

②「児童養護施設が担う機能と今後の展望・展開（児童養護施設からの提言特別委員会 最終報告書）」

論 点

1. 3つの機能についての現状と課題
2. 子どもにとっての小規模化の意味
3. 子育て支援を担う機関としての役割
4. これからの児童養護施設

座 長

柏倉 正（全国児童養護施設協議会 副会長／児童養護施設からの提言特別委員会委員長／北海道・函館国の子寮 施設長）



① 今後の児童養護施設に求められるもの



② 児童養護施設が担う機能と今後の展望・展開

参加申込について

参加申し込み

本大会へのご参加は、以下の専用サイトよりお申し込みください。

URL : <https://va.apollon.nta.co.jp/79jidou/>

申込み締切 令和8年 **10月16日** (金)

専用サイトには全国児童養護施設協議会ホームページからもアクセスできます。

全国児童養護施設協議会トップページ URL <https://www.zenyokyo.gr.jp/>

参加までの流れ

資料冊子の事前ダウンロードが必要です

1 上記「専用サイト」にて参加申込みをお願いします。

- 参加申込みの登録方法は、「専用サイト」トップページをご確認ください。
- 研究部会（分科会）ごとに参加定員を設定し、先着順で受け付けます。お申込みにあたっては、異なる研究部会を第2希望までご記入ください。第2希望までのご記入がない場合、申込み状況により定員に余裕のある他の研究部会に割り振る場合があります。
- 手話通訳、要約筆記、点字資料等、車いすを使用する等、必要な情報保障がございましたら、「専用サイト」の「その他」欄によりお知らせください。
- その他、不明な点やご要望がありましたら、事務局まで事前にお問合せください。

2 登録されたメールアドレスに各種ご案内が配信されます。

- お使いのパソコン等でセキュリティのためメールの受信拒否設定をされている方は、「@nta.co.jp」ドメインからのメールが受信できるようあらかじめ設定をお願い致します。
- 参加申込み完了後、翌営業日を過ぎても参加登録完了通知メールが届かない場合は、(株)日本旅行栃木営業統括部宇都宮支店まで必ずご連絡ください。
- 締切日(令和8年10月16日(金))までの変更・取消は、「専用サイト」において参加者ご自身による変更・取消操作を行ってください。
- 締切日以降の変更・取消は、大会運営事務局の(株)日本旅行栃木営業統括部宇都宮支店までメールでご連絡ください。

大会運営事務局専用 mail アドレス : zenyokyo_tochigi@nta.co.jp

3 10月26日(月)までに参加費のお振込みをお願いいたします。

- ・参加費入金後の参加取消は原則として返金対応を致しかねます。また、宿泊、意見交換会、昼食、シャトルバスのキャンセルについては、別途所定の取消料をいただきますので、あらかじめご了承ください。

4 ご入金確認後 **11月4日(水)以降、**

「大会参加券および各種利用券」がダウンロード可能となります。

- ・ダウンロードが可能となりましたらメールにてご案内いたします。
- ・大会当日は、参加券や各種利用券をダウンロード後に印刷して忘れずにお持ちください。
- ・本大会はペーパーレスでの開催となります。「大会参加券および各種利用券」とともにダウンロードできる「資料ダウンロードページのご案内」に掲載しているダウンロード用URL、パスワードをご確認のうえ、必ず事前に資料のご準備をお願いいたします。

◆ 留意事項

- ◆ 大会の **録画、撮影、動画配信、転用、および資料の複写・転載等は固く禁止** します。

- ◆ 個人情報の取り扱いについて

- 参加の申込みにあたりご提供いただいた個人情報は、本大会の運営・管理の目的に限り使用します。
- なお、本大会の申込受付等に関する業務を委託する(株)日本旅行栃木営業統括部宇都宮支店には、上記の目的のため、情報を共有します。

- ◆ 参加者名簿の作成について

- 参加者、関係者間の相互連絡を目的とした「参加者名簿」を作成いたします。参加者名簿には、参加申込みの際に登録された「都道府県名」「施設名」「役職名」「氏名」を掲載いたします。
- なお、取り扱いにあたっては、上記「個人情報の取り扱いについて」に拠り、本大会に関係のない者への譲渡、貸与、目的外の利用を固く禁じるものとします。

参加申込み方法、振込、変更・取消などに関するお問合せ

(株)日本旅行栃木営業統括部宇都宮支店 (担当:野澤、豊田、柴田)

〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り2-1-5 明治安田生命宇都宮大通りビル2F

TEL:028-346-3550 FAX:028-346-4174 / 問合せ対応時間:平日 9:30 ~ 17:30 (土・日・祝日休業)

Mail:zenyokyo_tochigi@nta.co.jp

大会の内容に関するお問合せ

全国児童養護施設協議会事務局 (担当:末廣、金田)

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 児童福祉部内

TEL:03-3581-6503 FAX:03-3581-6509